

# 日本の森を守る東北サミット

次世代へ美しい健全な自然を引き継ごう

実施報告書

平成25年4月26日

日本の森を守る地方銀行銀行有志の会 事務局

# 1 実施概要

- タイトル 日本の森を守る東北サミット
- 開催日 平成25年4月19日(金) 12:30~20:00
- 会場
  - ・植樹式/仙台市若林区荒浜『社会貢献の森』
  - ・サミット会議/ウェスティンホテル仙台
- プログラム
  - 13:55~14:40 植樹式  
＜仙台市若林区荒浜『社会貢献の森』＞
  - 15:30~15:45 東北サミット会議  
＜ウェスティンホテル仙台 2階 竹＞
    - ・オープニングセレモニー
    - ・講演
    - ・パネルディスカッション
    - ・全体会議
  - 18:50~20:00 レセプション  
＜ウェスティンホテル仙台 25階 雅・青葉・広瀬＞
- 主催 日本の森を守る地方銀行有志の会
- 後援 環境省、林野庁、国土緑化推進機構、宮城県、仙台市

## 2 実施内容

### ① 植樹式

仙台市若林区荒浜『社会貢献の森』において植樹式を行いました。堰八義博会長（北海道銀行頭取）より「64銀行の心と想いを込めて植樹したい。そして一日も早く心の中の森を取り戻してほしい」と挨拶があり、続いて、宮城県副知事・三浦秀一氏より「64銀行様に感謝しています。ディスティネーションキャンペーンでは宮城県各地の食を楽しんでもらい、人々に元気を伝えたい」との挨拶をいただきました。最後に七十七銀行氏家照彦頭取より「今回の植樹に勇気づけられ、再び緑の溢れるふるさと再生の為に、尽力しなければならないと決意を新たにしました。」と挨拶がありました。

その後、七十七銀行の新入行員の皆さんに協力いただき、松食い虫に強い抵抗性クロマツ750本（記念植樹は7本）を植樹しました。



▲堰八義博会長（北海道銀行頭取）



▲宮城県副知事・三浦秀一氏



▲七十七銀行頭取・氏家照彦氏



▲記念植樹



### ② オープニングセレモニー

会場をウェスティンホテル仙台へ移し、サミット会議を行いました。堰八義博会長が開会宣言を行ったあと、農林水産副大臣・加治屋義人氏より「全国各地での森づくりに感謝します。暮らしを支える海岸林再生に向けて、植えた苗木一本一本が地域経済の発展や森林資源の未来をつくり、支えてくれると思います。」と挨拶をいただきました。

また、加治屋氏は、「現在は耐震性や火に強い木材があり、同時に建築技術も十分にある、その中でいよいよ都市が木材化する時代が来ました。」と、あるテレビ番組を話題に挙げられ、「今後、建物丸ごと木材でできた銀行が作られることを楽しみにしています。そして国土の3分の2が森林で覆われている日本だからこそ、森林が経済発展に貢献できる一つになりたい。」と述べられました。



▶農林水産副大臣・加治屋義人氏



### ③ 講演

#### (1) 『いのちと経済を守る本物の森づくり』

講師／横浜国立大学名誉教授 宮脇昭氏

「なぜ、地方銀行頭取の方々が植樹を？生命には関係のないお金ではあるが、生きていくためにはお金も必要です。そして、生きていることは幸福であり、一番大切なのは生命があること」と、講演を始められ、各地域で行った植樹活動の実例を中心に、「木を植える時は一種類だけではなく実際の森の様に数種類の木を植えれば、生命力のある力強い木が育ちます。そして、本物は長持ちするし生き残る。だから本物の森づくりをして欲しい。50年・100年・9000年も持つ森づくりをして、平成の森をつくりたい」と、お話いただきました。



#### (2) 『森林浴の健康増進効果』

講師／日本医科大学准教授 李卿(リイ)氏



『森林浴の健康増進効果』について講演いただきました。

日頃、仕事などでストレスを感じている男女数名を被験者として、森林浴実施前後でNK細胞（ナチュラルキラー細胞）数を比較。その結果、森林浴をすることで男女ともに職業・年齢を問わずNK細胞が増加することが証明できたと説明いただきました。

旅先や普段過ごす中でも森林浴をすることでNK細胞が増加し、健康促進に繋がる」と、お話いただきました。

### ④ パネルディスカッション

#### 『世代を超えた森への関わり～東日本大震災を超えて』

コーディネーター／立教大学大学院特任准教授 見山謙一郎氏  
パネリスト／株式会社金澤林業社長 金沢滋氏  
NPO法人 森は海の恋人 副理事長 畠山信氏  
守屋木材株式会社 及川えみ氏



震災前後で企業としての社会への関わり方についてディスカッションを行いました。見山氏からの「震災前後で変わった事は何ですか？」という質問に、金沢氏は「震災前は一人であること、一人になれることを好んでいたが、震災後は誰かといること、何かを共有したいと思うこともあります。」と回答されました。また、畠山氏は東北復興を担う人材育成について、「作り換える発想力を持って段取りよく動き、人づくりを働きかけたい」と説明されました。そして、及川氏は今後について、「ゆとり世代と言われる私の世代は受け身になりがちですが、これからは発信する意識を持ち、林業に携わる者として森林の維持管理、そして保全に力を入れていきたい」とお話しされました。

## ⑤ 全体会議

共同宣言においては、新たに「暮らしを支える自然環境の整備」が加わり、5本柱の宣言を採択しました。

1. 「森林保全活動を中心としたネットワーク化」
2. 「林業・木材産業再生等を中心とした地域の活性化」
3. 「環境にやさしい金融商品づくり」
4. 「次世代へ引き継ぐ緑化活動」



5. 「暮らしを支える自然環境の整備」



▲環境事務次官 南川秀樹氏

会員行全64行より、総額50,015,756円の寄付をいただき、甲斐隆博副会長より「国土緑化推進機構」様、「瓦礫を活かす森のプロジェクト」様へ25,007,878円ずつ贈呈しました。

環境事務次官・南川秀樹氏より「様々な分野で活性化した森や水を守ることを大切にしたい。そして八戸～相馬までの600～700kmの遊歩道『三陸復興国立公園』を目玉にしたい」と挨拶があり、続いて、国土緑化推進機構副理事谷氏、瓦礫を活かす森のプロジェクトの新川氏より「大変多くの寄付金をいただきましたことに感謝するとともに、一日も早い東日本の復興に努めたいです。」と挨拶をいただきました。



▲谷福丸氏



▲新川氏

## ⑥ レセプション

【来賓挨拶】仙台市長 奥山恵美子 氏

【来賓挨拶乾杯】全国地方銀行協会副会長専務理事 福田誠 氏

【中締め】甲斐隆博 副会長 （肥後銀行頭取）



▲奥山恵美子 仙台市長



▲全国地方銀行協会副会長専務理事 福田誠氏

